

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 地球温暖化対策人材育成事業費（森林環境）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

生活部 脱炭素社会推進課 教育普及係 電話番号：058-272-1111(内2946)

E-mail：c11268@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 （前年度予算額： 1,000 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,000	0	0	0	0	0	1,000	0	0
要求額	1,000	0	0	0	0	0	1,000	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

- ・国は温室効果ガスの排出量を2030年度に2013年度比で46%削減することを目指して、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」を行う「COOL CHOICE」を推進している。
- ・本県では上記運動の岐阜県版として「ぎふ清流COOL CHOICE」キャッチフレーズに掲げ、幅広い層の県民を対象に普及啓発活動を実施中。
- ・また、地球温暖化対策の推進に関する法律第37条の規定に基づき、県民に、地球温暖化の現状やその対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動に取り組む「岐阜県地球温暖化防止活動推進員」を委嘱し温暖化対策を推進しているが、新たな推進員のなり手がおらず、推進員の世代交代により普及啓発活動の活性化が必要。

（2）事業内容

- ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダーの育成
- ・温暖化に関心のある県内学生を募り、地球温暖化対策の次世代の伝え手となる「ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー」を育成し、将来の推進員となるための基礎を身につける研修を実施
- ・県内学生を地球温暖化の伝え手として育成する研修を実施
- ・研修カリキュラムとして、地球温暖化対策に資する「賢い選択」を行う「COOL CHOICE」を中心にカーボン・オフセットに関する内容を追加、充実させ、温室効果ガスの吸収源としての森林の価値への理解を深めた人材を育成
- ・研修を通じて育成した学生アンバサダーは推進員と共に、別途開催するカーボン・オフセットを含む地球温暖化対策の普及啓発イベントにおいて県民への啓発を図る

(3) 県負担・補助率の考え方

県：10/10（清流の国ぎふ森林・環境基金充当）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	32	消耗品費
役務費	11	郵便、電話代
委託料	957	学生アンバサダー育成研修
合計	1,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）において、温暖化対策に向けた取組みを推進

(2) 国・他県の状況

気候変動適応法の施行（H30年12月）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

地球温暖化対策の推進に関する法律第37条の規定に基づき、県民に、地球温暖化の現状やその対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動に取り組む「岐阜県地球温暖化防止活動推進員」を委嘱し温暖化対策を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
研修受講者数 (累計)			25人	50人	125人	—

※達成率は（事業開始前－R3年度実績） / （事業開始前－終期目標） × 100とする。

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流COOL CHOICE学生アンバサダー育成研修（リモートで全4回の講座を実施、修了者19名） 【地球温暖化緩和・適応推進事業費で実施】
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防のため中止
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	地球温暖化の問題は、世界共通の問題として既に顕在化しており、その解決に向けて地域からも積極的に取り組んでいくことが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	地球温暖化防止推進員の講義、実地研修など、効果的な研修を実現。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	リモート研修を取り入れ、諸経費等も抑え、効率的な研修を実現。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・ 温暖化対策の伝え手である推進員の世代交代 ・ 温室効果ガス削減とともに、森林が持つ二酸化炭素吸収源などカーボン・オフセットへの理解促進
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>県内の家庭部門のCO2排出量は四半世紀で1.5倍となっており、また、全国に比べて家庭部門の比率が高いことから、これまで以上に地球温暖化(省エネ)対策を推進するためにも、引き続き学生アンバサダー育成研修を実施し、地球温暖化対策の伝え手として育成</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	